

競技注意事項

1 競技規則について

本大会に適用する規則は、2024年日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項である。ただし、踵より前底部の靴底が厚いフィールド競技用シューズについては競技規則TR5.2を適用除外とする。

2 招集について

(1) 招集場は、100m スタート付近の競技場外に設ける。

(2) 手順

① 招集開始時刻に競技者係の点呼を受ける。トラック種目出場者は、招集開始時刻までに自分のレーンナンバーを確認して、腰ナンバーを右腰のやや後方につけておくこと。腰ナンバーは招集場で配布する。招集時には、アスリートビブス(各自の登録番号)とスパイクピン等の確認を受ける。

② 点呼の代理人は認めない。但し、2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第1種目の招集の前に代理人をもって招集に応じ、代理人はその旨を競技者係に申し出ること。また、競技については本人がフィールド審判に申し出て、トラックの方を先に行うこと。

(3) 招集完了時刻に遅れた競技者は出場する意志がないものとみなし処理する。

(4) 招集完了時刻は下記の通りとする。なお、種目別の招集開始時刻/完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。

種目	開始時刻	完了時刻
トラック競技	30分前	20分前
フィールド競技	30分前	20分前
棒高跳	50分間	40分前

(5) リレー種目

① リレー種目のオーダー用紙は、受付時に手渡しする。選手変更の有無にかかわらず招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集場)に提出すること。オーダー用紙の提出がない場合は、欠場したものととして処理する。

② 出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(2)の②に準ずる。

③ リレーメンバー以外から起用する場合は、必要事項を忘れずに記載すること。

(6) すべての種目において、やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに招集場にある欠場届に必要な事項を記入し、競技者係に提出すること。

3 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

トラック競技のレーン順、およびフィールド競技の試技順は、全てプログラム記載順とする。準決勝以降の組み合わせは記録掲示板と招集場で発表する。なお、100m及び200mにおいては、出場者が25名未満であっても準決勝を実施することがある。また1500m以上の競技においては、予選を行うことが推奨される出場人数の場合でも、予選を行わず決勝のみとすることがある。

(2) 競技について

① スパイクのピンは11本以内とし、ピンの長さは9mm以下で、ピンの直径の先端は少なくとも長さの半分が4mm四方の定規に適合すること。但し、走高跳・やり投については12mm以下とする。

② アスリートビブスは配布された大きさのままでユニフォームの胸部と背部につけること。但し、跳躍競技に出場する選手は、胸部または背部だけでよい。

③ トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン(曲走路)を走ること。

④ 競技区域内(招集所内含む)に携帯電話・スマートフォン・タブレット等のデバイス機器を持ち込むことはできない。また、競技区域内で助力を与えたり受けたりしている競技者は、失格の対象となる。ただし、フィールド競技に出場してい

る競技者が、それ以前の試技の映像見る場合は、コーチ席付近であれば録画再生機器等を手にとって操作するために競技区域に持ち込むことは認める。

- ⑤ 競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。
- ⑥ 招集場からスタート地点、跳躍場、投てき場へ行く場合、競技者係の指示に従うこと。

(3) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。

男子	走高跳	(1m50・1m75)	1m55	1m60	…	1m85	1m90	1m93	…
	棒高跳	(2m00・3m60)	2m00	2m20	…	3m20	3m40	3m50	…
女子	走高跳	(1m20・1m45)	1m25	1m30	…	1m55	1m60	1m63	…
	棒高跳	(1m60・3m00)	1m60	1m80	2m00	2m10	…		

※1位決定の試技は走高跳2cm・棒高跳5cmとする

- (4) リレー競技に出場するチームは、同一ユニフォームで参加しなければならない。(形状を統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること。)
- (5) フィールド競技においてピットを離れる場合は審判員にその旨を伝えてから離れ、そのラウンド内に戻れなかった場合は、そのラウンドの試技は認められない。

4 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己のものを使用してもよい。なお、やりの検査は競技開始1時間前までに100mスタート側の倉庫前で行う。

5 その他

- (1) 顧問及び引率責任者(代理)の出席(審判)なき場合は、選手の出場を認めない。なお、競技役員受付を必ず通過すること。
- (2) 指定された時間以外のウォーミングアップは、補助競技場(サブ・グラウンド)で行うこと。ただし、投てきの練習は、招集完了後、役員の指示により競技場内で行うので、補助競技場での練習は行わないこと。また、跳躍の練習も役員の指示に従うこと。
- (3) 応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わないこと。また、集団での連呼応援は自粛すること。(特にトラック競技のスタート直前は注意すること。)
- (4) 競技中に起こった怪我については本部で応急処置のみ行う。
- (5) スタンド等で使用した場所は、各校で責任をもって清掃し、ごみはすべて持ち帰ること。
- (6) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、必ずスタンド下の通路や競技場の外側を使用すること。通行禁止や使用禁止の表示がある場合は、厳守すること。
- (7) 本部席前は通行を禁止する。許可されたもの(補助員)以外は通らないこと。また、審判長、総務、アナウンサー前での助言は競技会運営に支障を来すため行わないこと。
- (8) テントの設置、旗・横断幕の貼り付けは、すべてスタンドの通路より上部とする。
- (9) スタンド等における各校待機場所がトイレ前や通路、階段をふさぐことのないようにすること。
- (10) 商標規制については日本陸上競技連盟規則に準ずる。
- (11) 公園内・補助競技場(サブ・グラウンド)では、メディシンボール、チューブ等の使用を禁止する。トラック上に競技場備え付けの用具以外設置してはいけない。
- (12) メイン競技場全体を使つての練習については、初日は準備完了後から9時20分までとする。2日目は準備完了後から9時50分までとする。
- (13) メイン競技場バックストレート(1500mスタート付近から水濘障害までの芝生を除く区間)を使つての練習については、初日の3000m障害終了後(11時20分ごろ)から13時40分までとする。ただし、バトン以外の用具を用いたウォーミングアップは行わないこと。(競技進行中であるため、競技の進行を妨げることがないように注意すること)